

変わる仕事の世界における女性 の経済的エンパワーメント

竹信三恵子

1. 女性のエンパワーメントのための言説が ことごとく読み替えられた現在

- 女性活躍→非正規低賃金労働と過労死労働/ダブルシフト
- 男女で働く新しい豊かさ→カップルの自助努力による福祉の自己責任化/二人で働いてやっと一人分の賃金を得る暮らし(「共働き経済の終焉」論)
- 男性の育児参加→男性の二重負担と負担できない男性の排除
- 同一価値労働同一賃金→男性と同じことができれば賃金は同一にしてやるが、そうでなければ賃金格差はしかたない
- 個人的なことは政治的なこと→分配問題の回避

- 女性活躍→非正規低賃金労働と過労死労働による活躍
- 男女で働く新しい豊かさ→カップルの自助努力による福祉の自己責任化
- 男性の育児参加→男性の二重負担と負担できない男性の排除
- 同一価値労働同一賃金→男性と同じことができれば賃金は同一にしてやるが、そうでなければ賃金格差はしかたない

2. 背景にある新自由主義と国家主義の広がり、福祉的社会的衰退

- ピケティと公貧社会
- 福祉的社会的から夜警国家への道
- 「福祉による助け」が前提でなくなった社会が「活躍」を「搾取」に変えた
- 福祉はカネで買え→稼げる女性は浮上、稼げない女性は貧困専業主婦化＝女女格差」

ナンシー・フレイザーの提案

- ・ 家族賃金批判：性別役割分業、国家管理資本主義批判

- フレキシブル資本主義の正当化

- サービス産業化と低賃金非正規カップル

- ・ 福祉国家パターナリズム批判

- NGOによるマイクロクレジットなど国家の責任の回避

- ・ 処方箋

- 賃金化されない活動を尊重する生活様式によって家族賃金批判とフレキシブル資本主義の誤った連携を断つ

- 男性中心主義批判を経済的不公正批判へ

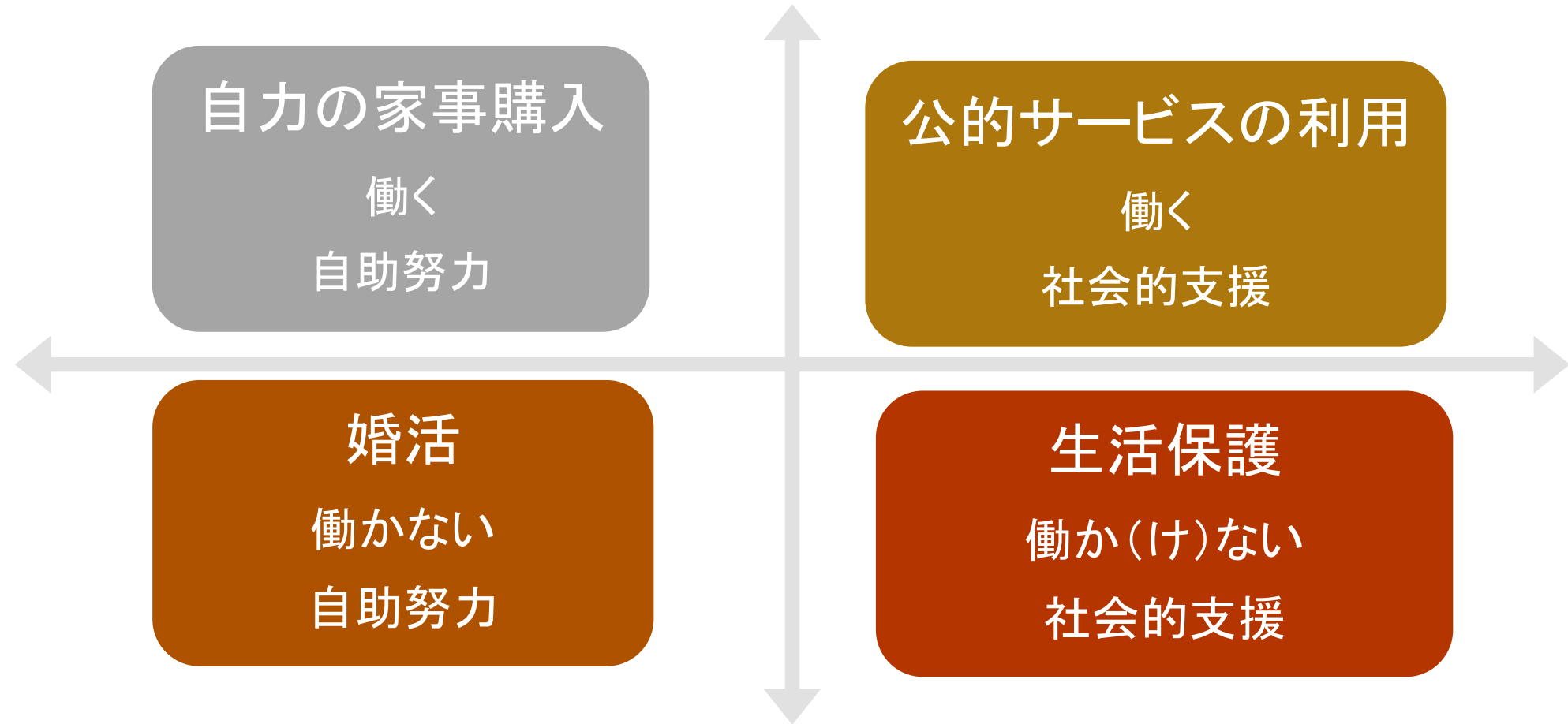
- 資本を制御する公的権力の強化へ向けた参加民主主義

- オランダ→家事労働の価値が認められている社会＝家事労働を時間で保障＋短時間労働でも生活できる社会システム整備（社会民主的システム＋自己選択）
- 米国→カネを稼ぐ力の評価＝カネの力で福祉労働を購入、卵子凍結医療による出産と仕事の両立の追求（カネ＋科学＋自助努力）
- 日本→家事ハラ＝労働時間に家事・生活時間は考慮されない、高拘束社員に合わせる＋稼ぐ力より女性規範（20代で産むことの押し付け）＝低賃金労働と自力の子育ての二重負担の強化→国家主義による国家への奉仕の強要（自助努力＋家父長的国家主義規範と国と企業への奉仕）

日・米・オランダの構造比較



女性の安全ネットモデル



3. 家事ハラ社会日本～エンパワーメントなき女性利用

- 家事労働ハラメントとは何か＝家事労働を無視、軽視、蔑視、排除する社会システムによる嫌がらせ
- 高い単身女性の貧困率(2012年国立社会保障人口問題研調査)
 - 20～64歳の単身女性の32% (男性25%)
 - 65歳以上の高齢単身女性の47% (男性29%)
 - 19歳以下の子のいるシングルマザーの半数
- 男女雇用機会均等法が達成したもの
 - 300万円以下8割から6割へ→ただ、その後は減らない
 - 背景に長時間労働

・日本型福祉社会構想と女性が働けない仕組み

→1979年の「日本型福祉社会構想」

→福祉はまず家庭で、企業がこれを支援、市場から補填、どうにもならない人にだけ国が支援

→英国とスウェーデンは国民を糖尿病にし、フリーセックスをはやらせている？

→オイルショックで財政に不安＝女性による無償福祉に本卦還り

→「日本人は豊か、だから福祉や教育は自力で調達できる」
＝規制緩和と市場万能化

・「妻が無償福祉、夫が家族を扶養」の固定化

→職場の長時間労働化

→1985年男女雇用機会均等法で経済力を増したのは、「妻」を獲得できた女性だけ

→1980年代に浮上した「過労死」問題

→家事(介護・育児)を政策の外側に排除した社会

→均等待遇の不在による非正規の貧困

4. アベノミクスは女性を輝かせるか

- 残業代ゼロ制度＝高度プロフェッショナル制度
- 労働者派遣法改定
- 家事は自己負担、公的責任からの撤退とビジネスチャンスづくり～女性の働きやすさは一日の労働時間規制と均等待遇
- 待機児童解消と保育支援員、外国人家事支援人材
- 女性に女性を支えさせて税金節約

5. 本当のエンパワーメントのために

- 「社会」「公共」の回復を意識した女性運動の必要性
- 賃金化されない領域（公的福祉の現物サービス）の増大による過重労働からの脱出
- 最低賃金の引き上げによる貧困化の阻止
- 職務分析による同一価値労働同一賃金による差別の阻止
- 家事労働、再生産労働を繰り込んだ労働時間の再設計
- 男女の家事の分け合いから、行政（福祉サービス）・企業（労働時間短縮）を交えた4者による分け合いへ→男性の家計維持負担の軽減
- 女性同士の情報ネットワークによる二極化の乗り越えを

- 参考文献
- 竹信三恵子『家事労働ハラスメント』岩波新書
- ナンシー・フレイザー『フェミニズムはどうして資本主義の侍女になってしまったのか』
- <http://thirdfemi.exblog.jp/23471355/>